

平成18年度 学校経営の改革方針の評価表

白子高等学校

	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	成果や課題、今後の方針
特別活動	<p>「活力ある学校創り」及び「地域との関係強化」に積極的に取り組む。</p> <p>(1) 一人々々の生徒が自主性を発揮し、全員で達成感を得る事ができるものとして独自の「創作ミュージカル」に挑戦する。</p> <p>(2) 地域のシルバー世代に喜んでもらえる種々の交流会その他、地域に密着した奉仕・福祉活動を積極的に継続して取り組む。</p> <p>(3) 学校マニフェスト及び一年間の活動成果や反省、課題を纏めた「学校白書」を公開（配布）する。</p> <p>(4) 白子高校ホームページの活用。 今年度アクセス回数 > 90,000 回を目標とし、開かれた学校創りに活用する。</p>	<p>(1) 達成：テーマは「大黒屋光太夫」。 3/9 に校内発表、3/10 に一般公開。 鈴鹿市民会館で上演。台本、作曲、舞台装置や衣装等、生徒達で分担。 生徒達の達成感は大い。</p> <p>(2) 達成：従来からの継続活動に加え、新規活動も拡大実施。ボランティア部、家庭クラブ、吹奏楽部、生徒会、ダンス部、軽音楽部等、全校的活動となる。</p> <p>(3) 達成：2 回目であり、スケジュール的にも余裕をもって作成することができた。</p> <p>(4) 達成：H19/2E で 100,000 回を超えた。 更新率も常に 60% 台後半を維持。 外部評価で三重県内更新率 1 位。</p>	<p>(1) 今年度は初演であり、吹奏楽コース 2 年生を中心に吹奏楽部全員（全学年）で支えた。来年度からは全校生徒を巻き込み、一大学校行事化として定着を図る。</p> <p>(2) 独居老人宅へ手造り弁当届け、本校体育館でのシルバー世代交流会、病院訪問、「花いっぱい運動」他、年金者の集い、みえ長寿会鈴鹿支部会員との新規交流会等々。県生活部や地区民生委員と協力した新規活動に積極的に対応した。</p> <p>(3) 実活動に比例して内容も拡充。保護者にも学校や子供の活動状況が分かる好評。教師自身にも自身の振返りのきっかけとなり、達成感も感じることができた。今後もさらに充実させる。</p> <p>(4) 学年通信や行事速報その他エッセイ等が幅広い層で読まれており、アクセスや反響も増加。今後も継続して内容充実を図る。更新率も県下 No.1。</p>
学力向上支援	<p>1. 新たな学力向上支援を目指す「高塾連携」。</p> <p>(1) 進学希望者向け発展的学習支援・白子塾「A 塾」の試行。今年度中に実施。</p> <p>(2) 確かな学力育成の為の基礎学力向上支援・白子塾「B 塾」の試行。今年度中の実施目標。</p> <p>.....</p> <p>2. 新たなコラボレーション</p> <p>(1) 地域の中学校との「高中連携」：高中間の交換授業の試み。</p>	<p>(1) 達成：3 塾（ガキ塾、教育グループ、KSK）の協力で前倒しで開始できた。</p> <p>(2) 達成：「公文」の協力を得て、これも前倒しで実施。3 学期末には 2 回目の診断 & 入替えテスト実施。</p> <p>.....</p> <p>(1) 未達：「高中」は実施できたが、逆はできず。50% の未達。</p>	<p>1：(1)も(2)もパートナーの開拓と確保が成功の鍵。本校へ着任以来の人間関係のお蔭で実現が可能となった。(1)は次年度も生徒のモチベーション維持が鍵。安易に志望校を下げて楽な受験に向かない指導が大切。(1)(2)共に今年度の目標の100%達成。但し、予想以上に対象者が多いので18名からのスタート。具体的な進め方等は「学校白書」に詳述。</p> <p>2：(2)は本校から国語科教師4名が鼓ヶ浦中学校を訪問。4学級で白子版「聞き書き学習」の授業を実施した。中学校からの派遣は実現困難。詳細は「学校白書」参照方。</p>

教 師 力 の 向 上 と 心 の 教 育 の 取 組 み	1. 「分かる授業」を目指す。 (1) 授業自己評価と授業に対するアンケート (2) 各種検定の受験 昨年度比2割増を目標とする。	(1) 達成：全ての教科で実施。教科毎に集計と内容を分析し気づきを纏めた。 (2) 未達：「家庭科技術検定」のみが全ての級で前年度を上回る成果を得たが、「ステップ英検」、「漢字検定」、「簿記実務検定」等は一部向上したものの当初目標は下回った。 右記数値の()内はH17年度成果。	1. (1) 生徒の学ぶ態度の改善と、より分かる授業を目指した取り組みの2年目。昨年の課題を改善して実施。教科毎の内容分析も気づきもより多くなった。教師個々人の授業改善に繋げていきたい。 詳細は「学校白書」参照方。 (2) 「ステップ英検」準2級：4(6)、3級：9(9) 「漢字検定」2級：6(2)、準2級：24(22) 3級：22(50) 「簿記実務検定」2級：8(2)、準2級18(44) 「家庭科技術検定」 (食)1級:23(15)、2級:24(22)、3級:47(40) (被) 2級:31(16)、3級:46(32) (食・被)4級:48(40)・40(40)
	2. 心の教育への注力 (1) 集中力醸成の取り組み継続 朝読、聞き書き、全校集会での集中力育成 (2) 白子高校独自の人権学習の新たな取り組み (3) 教員と生徒向け「人権講演会」	(1) 達成：朝読、聞き書き、全校集会は定着。全教員から心の講話を継続。 (2) 達成：「桜の花の…」に加えて、「原爆投下の記録」(VTR)の鑑賞と感想。性教育と命の教育の実施。 新入生の宿泊型インターンとも連携して実施。 (3) 未達：時間枠と経費が取れず断念。	2. (1) は完全に定着している。「朝読」については新たな展開が必要な時期。白子流の味付けが検討課題。 (2) 性教育については初めて助産師会と連携。教材ビデオについて意見の食い違いもあったが合意とれ、3回に分けて実施(1学年)。 (3) 外部に依存するだけでなく、次年度向けに「桜の花の…」および「原爆…」を実子。次年度はたに「泣きながら生きて」のビデオを加え、全学年での人権教育の共通教材化を検討する。

進路指導	<p>(1)キャリア教育での「高高連携」：合同面接</p> <p>(2) 学校・企業別合同ガイダンス</p> <p>(3) 早期の進路指導のスタート</p> <p>(4) リーダー養成の為に複合型キャリア教育</p> <p>(5) 進学指導の強化（学年団と協力した学力向上支援）</p>	<p>(1) 達成：鈴亀地区外部3校から参加あり。</p> <p>(2) 達成：2年目の取組み</p> <p>(3) 達成：職業観育成の為に校内が「ガイダンス」の拡充と早期の面接指導をスタート。</p> <p>(4) 達成：1～2学年各10名程度の参加。企業群NPOとの連携。合宿形式。</p> <p>(5) 達成：白子塾「A塾」「B塾」の共同での実施とフォロー。</p>	<p>(1) 2年目。外部3校は独自に実施できず感謝されている。合同面接は臨場感が増し本校もメリットあり。</p> <p>(2) 2年目。昨年好評で今年は参加学校・企業が増加。企業45社、大学・短大・専門学校75校。</p> <p>(3) 3年生は8～15回/人の校内・面接指導を実施。就職率向上効果あり。2年生向けにも開始。</p> <p>(4) NPO法人「みえ青少年先導会」との連携。詳細は「学校白書」参照。</p> <p>(5) 前述「学力向上支援」の項参照。</p>
生徒指導	<p>挨拶と身だしなみの徹底指導</p> <p>(1) 前年度からの「埴輪スタイル」禁止の徹底フォロー</p> <p>(2) ルーズ・ソックス禁止令、さらに靴の踵潰し（サンダル履き）禁止</p> <p>(3) ミニ・スカート禁止令（準備）</p>	<p>(1) 達成：校内では完全追放したが、冬季になると校外での違反の報告あり。通学路、駅前監視を強化。</p> <p>(2) 達成：H18/4からルーズソックスの完全追放実現。校外着用の報告もなし。踵潰しは数件/月程度に激減し、今はほとんど見かけなくなった。</p> <p>(3) 達成：H19/4から一斉に禁止とすべく、数ヶ月かけて基準、方法論の検討を重ね、種々の集会等で生徒への説明と指導を積み重ねた。保護者にも通知し、意見収集。本校指導に理解を得られたものと判断している。</p>	<p>従来からの頭髪、服装、ピアス、化粧品、マニキュア類は当然の指導対象であり、左記の3種は最後の指導対象。突然、禁止するのではなく、説明に時間をかけ（学年集会や全校集会その他HR）、最後は、各々の案件毎に、保護者宛に背景と現状、そして理由と本校教育方針を事前説明する手紙を配送。意見も収集し、それも公開することにより理解を得た。</p> <p>【注】卒業式の日、在校中は指導に反抗的だった女子生徒から「私が三年間お世話になった先生方へ」という手紙が学年主任へ届けられた。そこには、厳しい指導に反抗したが、今は自然に定着している自分を振り返り、納得できた胸の内が吐露されており、教師一同、気持ちに通じていたことが分かり、逆に感動をもらった。</p>

組 織 力 向 上	<p>(1) 学校品質向上委員会</p> <p>(2) 学年主任ミーティング設定</p> <p>(3) 学科 / コース運営委員会</p> <p>(4) 教員研修オフサイトミーティング</p>	<p>(1) 達成：本委員会で新旧プロジェクトの立ち上げやフォローを実施。その上で、企画会議や職員会議へ諮るシステムが定着。</p> <p>(2) 達成：学年間の意思疎通と、各々の活動比較ができ、良い意味の競争意識が醸成された。</p> <p>(3) 未達：家庭学科と吹奏楽コース別に管理職も入った運営委員会実施の計画。前半実施するも後半は延び々々となり、意思疎通に欠けた時期あり。</p> <p>(4) 未達：若手育成の想いもあり、企画から実施まで全て任せだが、参加数および研修内容も低調であった。</p>	<p>当初の「白子高校再編活性化委員会」から「学校経営品質向上委員会」へ移行し、さらに恒常的かつ汎用的組織として「学校品質向上委員会」へと改称、改組した。ここでも若手育成を意図したが成功したとは言えない。さらには、従来の「企画委員会」と「職員会議」ルートとの位置付けが曖昧になった為、来年度はこれらの位置付けを再確認する。</p> <p>その時、既存の委員会や部会、および新規プロジェクト群の見直しと再編も実施する。再編後の個別プロジェクト・リーダーには意識的に若手を登用し、かつ、それをサポートする中堅 or ベテランの組み合わせを考える。</p>
-----------------------	--	--	---

ま と め

従来、学年間でバラツキがみられた生徒指導が、今年度は学年主任ミーティングの効果もあり、生徒指導部をセンター的役割として情報交換が上手くいき相乗効果が現われた。また、個別教師の意識も向上し、見て見ぬ振りは無くなった。目標だった「後追い指導から先導指導へ」も予想以上に展開できたと確信する。かつ、生徒達自身が「何故、指導が厳しいのか」の本質を理解できるようになってきた（生徒の質の変化）も大きな進展要因である。

但し、これまで積み重ねてきた各種Pjが前例踏襲的になる前にリニューアルが必要な時期に入ったことも確かであり、各主任レベルでそのことに気付き、再編活動が現出してきたことが嬉しい成果である。最近では、アイデアを出すと自然にリーダクラスの教師から提案書が出てくるようになった。

さらに、学力向上支援の「白子塾」活動は予想以上の進展をみせた。これまで本校生の学力の実像が掴みきれていなかったが、その実態を白子塾「A・B塾」で明らかにした。結果は「パンドラの箱」を開けたような思いであった。しかし、全教師が実態を見つめ、改善に向けて行動を一にする風土が醸成されたことも成果に挙げられよう。上記のように、各目標は一定の成果をあげており、基本的には本年度の取組を継続していくが、数が増えた各種Pjを「選択し集中する」時期となった。今後も、バックグラウンドでは「プロジェクト型組織運営」を行ない、その成果を従来の分掌型組織運営へ写像しつつ、学校全体の組織構造を改革していく。